

オリエンタル系ユリ輸出シミュレーション試験報告書

令和3年3月26日・高知県

1 目的

オリエンタル系ユリの輸出有望品種を対象国へ輸送するシミュレーション試験を実施することで、輸送中及び輸送後の切り花品質等を把握し、今後の輸出に向けて必要なノウハウを獲得する。

2 試験場所

(株)フラワーオークションジャパン試験室

3 試験実施時期

令和3年1月16日(土)夕方高知県土佐市から出荷し、1月17日(日)夕方に東京都花き市場到着。1月18日(月)～20日(水)の期間に輸送シミュレーションを実施。1月20日(水)～2月3日の期間に日持ち性を調査。

4 試験方法

(1) 想定する目的地、輸送方法

1) 目的地: アメリカ合衆国ネバダ州ラスベガスのホテル

2) 輸送方法: 高知～東京は陸送、東京～ロサンゼルスは空輸、ロサンゼルス～目的地は陸送

(2) 輸送スケジュール・輸送環境、日持ち性調査環境の設定

試験実施前に、目的地へ輸送する際の時間・環境(温湿度)を調査分析し、その結果(令和2年1月調査済のデータを利用(参考資料))をもとに、再現できる範囲で本試験での輸送時間・環境を決定(表1)。日持ち性調査は、調査委託先の基準(日本花普及センター「切り花日持ち試験レファレンスマニュアル」に準じる)で実施。

表1 輸出シミュレーションのスケジュール

作業内容	温度(℃)	処理時間
産地(高知県土佐市)～花き市場(東京都)(トラック輸送)	成り行き	24時間
市場にて分荷・保管	成り行き	17時間
市場にて輸出用の荷づくり	10	1時間
空港での保管、航空便輸送、海外での陸送、納品後使用までの保管	10	48時間
日持ち性調査(市場内試験室)(14日間)	25	

(3) 試験区の構成

1) 供試品種

2品種(八重品種(‘ビオラ’)、‘カサブランカ’)

2) 試験区

供試2品種について、輸送時の保水有無と後処理有無の各区を設置

表2 試験区の構成

区名	品目	輸送時の保水(市場～海外)	後処理(鮮度保持剤)
1	八重(ビオラ)	あり	あり
2	八重(ビオラ)	あり	なし
3	八重(ビオラ)	なし	あり
4	八重(ビオラ)	なし	なし
5	カサブランカ	あり	あり
6	カサブランカ	あり	なし
7	カサブランカ	なし	あり
8	カサブランカ	なし	なし

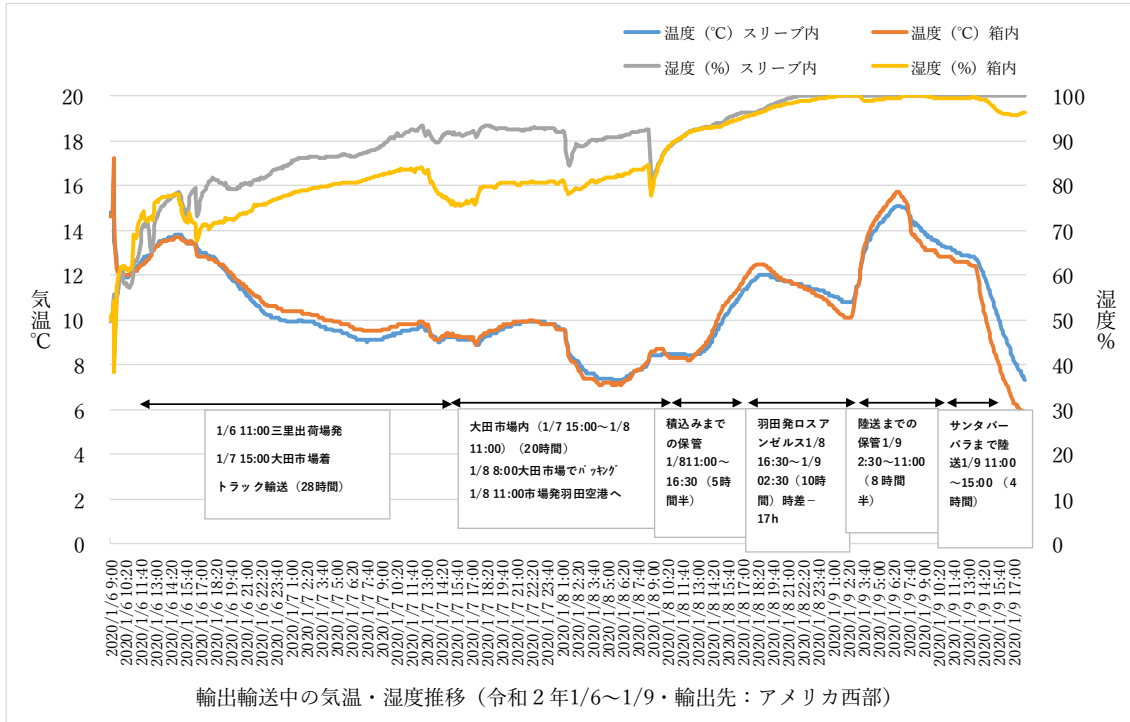
(4) その他試験設定項目

- 1) 処理本数: 各区5本。日持ち調査は、各区5本から3本を抽出し実施。
- 2) 輸送箱、入り本数: 輸送箱は国内出荷用のものを利用。箱入り本数は、各品種とも1箱当たり5本束×2束(10本/箱)。
- 3) 前処理: 八重品種は、生産者段階でクリザール社「ユリ開花液」10倍希釈で数時間処理。‘カサブランカ’は、水道水で水あげ。
- 4) 輸送時の保水: 市場までは乾式輸送とする。「輸送時の保水あり」は、市場でライフプラス社「花かれん」を装着・保水し、目的地(想定)まで輸送。
- 5) 後処理: 「後処理(鮮度保持剤)あり」は、目的地到着後からクリザール社「フラワーフード」100倍希釈液を利用。以後、日持ち調査終了時まで継続。「後処理(鮮度保持剤)なし」は、水道水を利用。

(5) 調査項目

調査は、目的地到着時及び目的地到着から日持ち調査終了時までの期間で実施。調査項目は、花の状態(つぼみの開花程度、変色、萎れ等)、葉の状態(萎れ、黄化等)、日持ち日数。

5 参考資料



6 結果及び考察

(1) 結果

試験結果は、別添の(株)フラワーオークションジャパン「ユリ輸送比較試験結果報告書」に記載。報告書記載内容及び(株)フラワーオークションジャパンからの聞き取りによる結果概要は以下のとおり。

- 1) 想定した目的地到着時の保水有無による影響は、見られなかった。
- 2) 八重品種‘ビオラ’の日持ち日数は、区による差は小さく、全区で6日程度となった。
- 3) ‘カサブランカ’の日持ち日数は、後処理を実施した区で7日間程度、後処理の実施しなかった区で13日程度となった。

(2) 考察

- 1) 目的地まで保水なし(乾式)は、目的地到着時の萎れ等の影響がなく(調査データなし、聞き取りによる)、日持ち性への影響も小さいと考えられた。このため、海外目的地まで保水なし(乾式)で輸送することが可能であり、輸送コスト低減を図ることができると考えられた。
- 2) 八重品種‘ビオラ’の日持ち日数が6日程度と短くなったが、その要因はつぼみの未開花と葉の黄化であった。今後、海外輸出を実施するためには、日持ち性の改善が必要である。
- 3) ‘カサブランカ’では、後処理なしで日持ち日数13日程度であり、日持ち性は問題ないと考えられた。後処理剤を実施した区の日持ち日数が7日程度と短くなった要因としては、葉の黄化が5日目から見られ始めたことから、雑菌による導管閉塞が考えられたが不明である。